

授業情報／Course information

戻る

●授業基本情報

科目名／Course title	国際開発協力論：「開発」とは何か II／International Development Cooperation : What is "Development" ? II		
担当教員／Instructor	宮田 春夫		
対象学年／Eligible grade	1, 2, 3, 4, 5, 6	開講番号／Registration Code	180G3735
講義室／Classroom	総合教育研究棟 B450	開講学期／Semester	2018年度／Academic Year 第3,4ターム／the third and fourth term
曜日・時限／Class period	水/Wed 3限	単位数／Credits	2
授業形態／Type of class	講義	科目区分／Category	新潟大学個性化科目 自由主題／Niigata University Original Subjects Other Themes
副専攻／Minor	副専攻「平和学」	定員／Capacity	20
分野／Academic Field	75 : 新潟大学 個性化科目 35 : 政治学	水準／Academic Standard	05 : 全学学生受入可・発展内容科目大学院接続水準
抽選方式	手動		

●授業概要情報

更新日／Date of renewal	2017/12/27
対象学部等 ／Eligible Faculty	全学部
聴講指定等 ／Designated Students	開発途上国の開発について強い関心のある学生に限ります。副専攻「平和学」指定科目です。履修希望者数が合理的な授業遂行が困難なほどに多い場合は、副専攻「平和学」修得希望者を優先します。「開発」とは何かという基本に関わる内容なので、副専攻「平和学」登録者は、3年の時に履修すると4年の総合演習等に役立つかと思います。
科目の概要 ／Course Outline	Amartya Senの『Development as Freedom』(英語)を読みながら、「Development」(開発、発展)の概念について学びます。
科目的ねらい ／Course Objectives	Amartya Senは、「development」は幅広く捉えられるものであって、所得の増加といったことではなく、幅広く個人の不自由(unfreedoms)を小さくすることであるとし、同時に、不自由を小さくすること(自由の拡大)は「development」の目標であるばかりでなく、その実現の手段でもあるとしています。更には、人々は、自分の生活や社会を良くする行動主体(agent)であり、そのためには、1人1人がその人なりの理由により価値があると考える生活を送る力(capabilities)を向上させることが重要であるとしています。これに関連して、貧困とは、単に所得が少ないといったようなことではなく、総合的にそのような力の基本的なものが奪われている状態(deprivation of capabilities to lead the kind of life that the person has reason to value)であると論じています。また、1人1人が社会の一員として暮らしていることから、みんなで議論して共有の規範や価値観を作っていく行動の責任を負っていることも強調しています。これらのポイントをまず理解し、その上で、それを実現するための個人レベル、社会レベル等の諸課題をそのような視点で見ることを学びます。
学習の到達目標 ／Specific Learning Objectives	上記のような「development」とは何かについて理解し、それに基づき、それぞれの関心分野に関わる諸課題について、自分なりの視点で取組を考えることができるようにしたいと考えます。
登録のための条件(注意) ／Prerequisites	開発途上国の「開発」の問題について関心のあることが不可欠です。 教科書が英語であるので、忍耐強く英語を読む力も必要です。英語を読むことに尻込みする学生がいますが、手段として使うために高校までに英語を習ってきたのです。大学に入り、それを実際に手段として使う時が来たと考えるべきです。実際に手段として使うことにより、英語を自分の専門等の手段として使う力も向上します。これは、グローバル化した社会に出た時に直ちに必要になる力もあります。 前期開講の「開発とは何かI」を履修しておくと、より深く理解できるので、前期にそれを履修しておくことをお勧めします。 なお、開発途上国の「開発」に強い関心のある学生だけのための授業であり、「開発」に関心の無い学生が英語の学習のために履修することは、この授業の内容に関心を持って学ぶ学生に対して迷惑なので、お断りします。 なお、教員の定年退職のため、この科目的開講は2018年度が最後です。
学習方法・学習上の注意 ／Study Advice	開発途上国の「開発」に強い関心のある学生のための授業です。その関心に動機付けられて、積極的に読むこと、加えて、他の学生と協力・分担してそれをまとめる積極的な参加が必要です。 事前に教科書全体を読むことは難しいかもしれません、それぞれの章の冒頭(節が始まる前の部分)は、その章へのイントロダクションになっています。この部分を事前に読んでおくと、それぞれの章の内容が理解しやすくなります。 内容、教科書の入手等については、遠慮なく宮田に問い合わせて下さい。
成績評価の方法と基準 ／Grading Criteria	人数がごく少ない場合には授業への積極的な態度により評価し、そうでない場合は、そのような態度の状況に加え、センの開発論または各章の論点の理解を口頭若しくはメモによりまとめてもらうことで評価します。
使用テキスト ／Textbooks	Amartya Sen, 1999 "Development as Freedom" 366 pp., Anchor Books及びOxford University Press (2017年12月現在、amazon.co.jpで、Oxford版が約1,800円、Anchor版が2,000円弱。英国のbookdepositary.comは、送料込み価格をamazon.co.jpと同じにしている。しかし、abebooks.com経由で購入すると、それぞれ13ドル余りと16ドル余り。)(どちらの版も、表紙が異なるだけで、内容は全く同じです。どちらを使ってもかまいません。)

関連リンク ／URL of syllabus or other information	<p>海外の出版物なので、教員がまとめて購入する等の措置も講じることができます。まとめての購入等を希望する学生は、宮田まで、早めに相談して下さい。なお、よく売れている本のため、一定の在庫のあることが普通なので、自分で購入して、早くから読み始めることが可能ですが、日本国内の在庫は限られています。</p>
授業内容や追加情報 ／Additional information	<ul style="list-style-type: none"> United Nations Development Programme (UNDP), 2009 "Human Development Report 2009" United Nations (次のところから無料ダウンロード可能: http://hdr.undp.org/) (Mahbub ul HaqやAmartya Senの考え方に基づいて、各国のdevelopment(直接的には、個人が自分たちの生活を良くする能力の状況)の指標である人間開発指数(Human Development Index)等に関する年次報告書。なお、人間開発指数の計算の仕方が、2010年版から変わりましたが、目標の設定に重大な問題があります。そのため、2009年までの版を参考すべきと考えます。) Amartya Sen, 1981 "Poverty and Famines", 257 pp., ILO. センの考え方の基礎の一つになった実証研究。あくまでも、センの考え方の背景を詳しく研究したい人のために。 Jean Dreze and Amartya Sen 1989 "Hunger and Public Action", 373 pp., World Institute of Development Economics Research. 同上 Dreze and Sen, 1995 "India: Economic Development and Social Opportunity", 292 pp., Oxford University Press 同上 (以上3冊を1冊に綴じた"The Amartya Sen and Jean Dreze Omnibus"がOxford University Pressから1999年に出ています。) Amartya Sen, 2006 "Identity and Violence" 215 pp., Norton版(原出版社)及びPenguin版あり。約2,000円。(2011年には勁草書房から和訳が出ています。)「文明の衝突」という見方の誤りを厳しく指摘した本。彼の生まれ育ったダッカでの経験なども紹介され、彼がどのようにして「development」について非常に幅広く考えることができるようになったかの一端がわかります。読みやすい本です。(教員ウェブサイトのトップ下部を御参照。) Amartya Sen, 2009 "The Idea of Justice" 496 pp. Allen LaneとBelknapのそれぞれから出版。(ペーパーバック: Penguin版 amazon.co.jpで約2,500円、英国からの直輸入で送料込み約2,000円)(2011年には明石書店から和訳が出ています。) "Development as Freedom"の内容を更に発展させて、正義について論じているもの。"Development as Freedom"の内容でわかりにくい「正義」の章も、この本を読むとよく理解できます。全体として、「development」とは何かについて、更に深く理解できます。ハードカバーとペーパーバックで合計4つの版が出ていますが、どれも内容は全く同じです。なお、この本は、「国際開発協力論:「開発」とは何かIII」で教科書として使います。 Amartya Sen, 1993 'Capability and Well-Being' in Martha C. Nussbaum and Amartya Sen (eds.) "The Quality of Life" pp. 30-53, Clarendon Press. センは、Development as Freedomでは、重要な概念のbasic capabilitiesについて何ら説明していないが、この小論ではそれを明確にするなどしています。
参考文献 ／References	<ul style="list-style-type: none"> Pk. Md. Motiur Rahman, Noriatsu Matsui and Yukio Ikemoto, 2009 "The Chronically Poor in Rural Bangladesh: Livelihood Constraints and Capabilities" 187 pp., Routledge. センと同様の関心を持つ研究者たちによる実証研究。センが生まれ育ったバングラデシュの農村で代々貧しい人たちの衝撃的な状況を数字等で明らかにした好著。センが貧しい人たちのことを中心に考えている背景も理解できます。160ドル(個人では購入し難い。) 同, "Dynamics of Poverty in Rural Bangladesh" 262 pp. Springer, 2013. 上記の後編。16,000円余り。日本語版が出る可能性あり。 John Rawls, 1999 "A Theory of Justice" Revised Edition, 538 pp., Harvard University Press. Development as Freedomの1つの章では、Rawlsのこの著作を引用していますが、Rawlsが何を言っているかがあまり説明されていません。それを理解したい人のために。もっとも、現代正義論の基本書ですが、Senは、"The Idea of Justice"においてRawlsの論考が制度主義(制度があれば自動的に正義が実現すると考えている。)の延長で、また、それぞれの人の事情によって多様である究極の正義を一つのものとして目指している(現実の重大な不正義をなくすことこそ重要な正義。)と、厳しく批判しています。なお、和訳版は非常に難解な日本語で書かれていますが、この原本は大変平易な英語で書かれていて、和訳よりもはるかに理解容易。 岩田正美、2007『現代の貧困: ワーキングプア/ホームレス/生活保護』221 pp. ちくま新書659。開発途上国の開発問題をやっている者が、日本の者が足元の貧困問題(deprivation of capabilities)という意味においての。)についても理解し、それを開発途上国や世界の開発・貧困問題の理解にも役立てようとする時、強く勧められる好著。高度成長により、「一億総中流」とされ、貧困問題はなくなったと日本人は思い込んでいましたが、しかし、実際には、それに取り残された人たちがいたのです。路上生活者等の貧困層のほとんどが、元々貧困問題に直面していた層であって、その貧困から抜け出すのが非常に難しい状況にあることが明らかにされています。つまり、貧困層は、アマルティア・センの言う「貧困」の定義のとおりに、自分たちの生活を良くする力を欠いているのです。700円。 岩田正美、2008『社会的排除: 参加の欠如・不確かな帰属』206 pp. 有斐閣、1,500円。上記の本の内容のうち、センも触れている社会的排除に的を絞って論じたもの。参考文献の紹介等多くのものを得られる優れた書籍。 Mahbub ul Haq, 1976 "The Poverty Curtain: Choices for the Third World" 247 pp., Columbia University Press. 特にPart I: New Development Strategies. 著者の代表作。センとも考え方方に一定の共通性があるので、センの考え方が展開してきた過程の一部の理解の補足のために。 絵所秀紀「後期アマルティア・センの開発思想」『経済志林』69巻2号、pp. 155-192,法政大学経済学会、2001年(http://repo.lib.hosei.ac.jp/bitstream/10114/1433/1/69-2esho.pdf)
キーワード ／Keywords	<p>石塚雅彦訳、2000: アマルティア・セン『自由と経済開発』第2版、428 pp., 日本経済新聞社、2,200円(Amartya Sen, 1999: Development as Freedomの和訳。基本的な概念の訳に大きな間違いが多く(そもそも、本の表題自体が、間違っています。)、日本国内に混乱を生じさせているので、全くお勧めしません。原文自体が、翻訳の難しい概念を多く含んでいることも事実です。しかし、原文を読めば、理解できるので、原文で読むことを強くお勧めします。)</p> <p>(以上の価格は本体価格です。但し、自分で輸入するものに対しては消費税がかかりません。)</p>
備考 ／Remarks	<p>開発、発展、セン、capabilities, freedom, Sen</p> <p>副専攻「平和学」指定科目です。2012年度まで副専攻「平和学」のためのQコード科目でしたが、2013年度からGコード科目に変更して、より多くの学生が履修しやすないようにしました。このコード変更に際して、科目名を「国際開発協力論:「開発」概念 II」から少し変更しました。 文系科目です。</p>

教員の定年退職のため、この科目的開講は2018年度が最後です。

●授業計画詳細情報

内容 ／Content	準備学習 ／Preparing learning	備考 ／Notes
<p>Amartya Senの『Development as Freedom』を使い、より幅広い「development」概念について学びます。その主な内容として次のようなものがあります。各章に2-3コマを費やします。</p> <p>(1) 「自由」(制約から解放されるという意味のlibertyではなく、進んで社会の規範形成等の責任を負うことなども含むfreedom)</p> <p>(2) 「開発」の目的と手段</p> <p>(3) 自由と正義の基礎</p> <p>(4) 自分の生活を良くする力の欠けている状態としての「貧困」</p> <p>(5) 民主主義とは西欧の概念なのか</p> <p>(6) 人口、食糧、自由：民主主義の下で飢餓は起こらない。</p> <p>(7) 社会の共有の価値観・規範の形成と個人の行動</p>	<p>教科書予め読んでおくことは容易でないかと思いますが、各章の冒頭には、その章の内容が紹介されているので、容易な理解のため、それを読んでおくことをお勧めします。</p>	